非公開寺院 昼の特別公開と夜間ライトアップ

廣誠院

"Light of The ISHIN" ● Illumination of the KOUSEIIN

維新の光

2013年｜平成25年

3/30㊏ ⟶ 4/14㊐

昼:10時～17時／夜:18時30分～21時 ※入場は閉門30分前まで

明治日本の発展を担った数寄者 伊集院兼常の邸宅を特別公開

◎会場:廣誠院(二条木屋町) ◎入場:昼夜二部制 各600円(税込)※中学生以下無料
◎主催:廣誠院 ◎共催:特定非営利活動法人 京都文化協会 ◎特別協力:東映(株)京都撮影所
◎お問い合わせ:特定非営利活動法人 京都文化協会／TEL:075-354-8195

題字:金澤翔子

廣誠院

長州藩邸跡に建つ明治の数寄屋建築

二条木屋町、ホテルオークラの裏に建つ廣誠院は、明治の建設業の発展を担った旧薩摩藩士 伊集院兼常が幕末の長州藩邸の跡地に自らの邸宅として明治25年(1892年)に建てたものです。後に廣瀬家の手にわたり、臨済宗の寺院として今日までひっそりと守り受け継がれてきました。京都市指定文化財である建物と京都市指定名勝である庭園には近代数寄者として建築造園に類まれな手腕を振るった伊集院兼常の工夫が随所に見られます。西洋化する明治期の中、洗練された日本の数寄を結集した伊集院兼常の邸宅を特別公開致します。

明治の技術を駆使した数寄屋造り

北山杉の絞り丸太を使用した床柱、春慶塗のかまち、趣のある火灯窓など随所に数寄屋造りの工夫が凝らされ、親交の深かった元老山縣有朋から送られた菊桐紋をすかした欄間、大久保利通の書など幕末・明治を駆け抜けた伊集院兼常の世界が出現します。

近世の小堀遠州と評された伊集院の庭園

高瀬川から引き込まれた水流は、広間や茶室をくぐりながら庭園を南北に縦断し、再び高瀬川に戻ります。中心には花崗岩でできた橋のかかる涼やかな庭園は、木屋町の雑踏から隔絶された空間が作り出されています。

建物と庭園が調和する近代造園の先駆

池中の礎石から立つ一本の丸太が3mに及ぶ深いひさしを軽やかに支え、大きく開けた軒下が書院からの眺めを演出します。建物と庭園の調和する廣誠院は南禅寺近郊の近代庭園や作庭家7代目小川治兵衛へと繋がる京都近代造園の先駆となるものです。

障子に映る水面

午前中のある時間帯になると、太陽光が庭園の池の表面に反射し、水紋が書院の障子に映し出されます。その目を見張る光景は明治のスクリーンと評され、自然の全てを計算し、空間を作り上げた数寄者伊集院兼常の才覚の極みです(期間中10時半～11時半頃)。

伊集院兼常:
(1836～1909)旧薩摩藩士。維新後は官僚・実業家として活躍。早くから建築・造園に才能を発揮、薩摩藩士時代は藩主島津斉彬に見出され、江戸薩摩藩邸の建築や西洋建築に取り組む。維新後は鹿鳴館の建築を担当し、渋沢栄一らとともに日本土木会社(現在の大成建設の前身)を設立するなど、日本建設業の発展を担った人物。また、増田鈍翁を始めとした多くの数寄者と交流し、裏千家を支援するなど、茶を嗜む文化人・近代数寄者でもあった。趣向をこらした彼の造園技術から、近世の小堀遠州とも評価された。

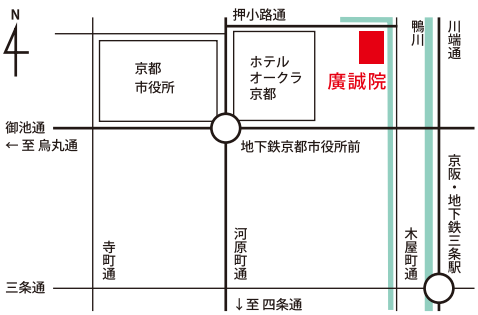
維新の光

初の夜間特別ライトアップ

ライトアップは、東映㈱京都撮影所によって行われます。幕末動乱の中心地長州藩邸跡に、明治日本の数寄の結晶として建てられた廣誠院。日本の発展を担った伊集院兼常と共に維新の輝きを見続けたこの場所を「維新の光」というコンセプトで照らします。

臨済宗保水山廣誠院 http://kouseiin.org/

京都市中京区河原町通二条下ル東入ル一之船入町538-1
地下鉄：京都市役所駅より徒歩1分
市バス：3・4・10・15・17・32・37・51・59・205系統
100円循環バス　「京都市役所前下車」徒歩4分

※昼夜二部構成：入場は入れ替え制、各部に入場料が発生いたします

お問い合わせ
京都文化協会 | TEL:075-354-8195
http://www.kyo-bunka.or.jp/